

第 3 8 期 株 主 懇 談 会

2019年6月27日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

バクダン橋(ベトナム:ハロンーハイフォン間 全長5kmの渡河橋)

SEC 株式会社 エスイー



エスイーグループでは、既存事業の安定成長と成長事業の拡大のみに留まらず、さらなる発展のための成長戦略に挑戦してまいります。



目 次

- I. エスイーグループの概要
および業績について
- II. エスイーグループの今後の戦略



I. エスイーグループの概要 および業績について

SEC 株式会社 エスイー

(2019年4月1日現在)

- 商号 : 株式会社エスイー
- 創業 : 1967年(昭和42年) 8月
- 設立 : 1981年(昭和56年)12月
- 資本金 : 12億2,805万円
- 代表取締役 : 代表取締役会長 森元 峯夫
: 代表取締役社長 大津 哲夫
- 本店所在地 : 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号
- 連結子会社数 : 6社
- 従業員数 : 単体166名 連結498名
- 株主数 : 4,845名
- 上場市場 : 東京証券取引所JASDAQ市場スタンダード
(証券コード 3423)



バクダン橋(ベトナム、ハロン湾ハイフォン)
全長5km、5径間連続PC斜張橋、スパン240m、幅員6車線27m
2018年9月1日完成、総工事費270億円
日越国交樹立45周年記念 (株)エスイー、(株)アンジェロセックによる
提案・設計 BOT投資プロジェクト

エスイーグループの事業は、4つのセグメントにより構成されています

建設用資機材の製造・販売事業

- ・ケーブル製品分野
- ・鉄鋼製品分野
- ・コンクリート製品分野



エスイー



A&Kホンシュウ



エスイー鉄建

建築用資材の製造・販売事業

- ・建物に用いられる建築用関連製品の製造・販売



A&Kホンシュウ



エスイー鉄建

建設コンサルタント事業

- ・海外（特にアフリカ、東南アジア）での道路、橋梁、建機、水、エネルギー、開発調査等に係るODA市場とアフリカ諸国等での幅広い建設コンサルタントサービスの提供



アンジェロセック

補修・補強工事業

- ・補修・補強工事（橋梁構造物、トンネル、水力発電所等）を中心とした施工および点検・調査業務



エスイーリペア



ランドプラン

セグメント	区分	主な事業内容・製品等	会社名
建設用資機材の製造・販売事業	ケーブル製品分野	「アンカー」、「落橋防止装置」、「PC用ケーブル」、「外ケーブル」、「斜材」、「控索」等のケーブル製品(付属品)の製造・販売 建設用機材のレンタル	(株)エスイー (株)コリアエスイー (株)アースデザインエンジニアリング
	鉄鋼製品分野	「KIT受圧板」、「変位制限装置」等 建設用鉄鋼製品の製造・販売 建設商材の販売	(株)エスイー エスイー鉄建(株)
	コンクリート製品分野	コンクリート二次製品の製造・販売 ESCON材料、二次製品の製造・販売	(株)エスイー A&Kホンシュウ(株) (株)北都運輸
建築用資材の製造・販売事業	建築金物分野	「セパレーター」、「吊りボルト」等の建築用資材の製造・販売	A&Kホンシュウ(株)
	建築鉄骨分野	鉄骨工事および建築部材・建築耐震金物等の製造・販売	エスイー鉄建(株)
建設コンサルタント事業	—	国内建設コンサルタント事業、海外(特にアフリカ、東南アジア)での建設コンサルタントサービス	(株)アンジェロセック (有)日越建設コンサルタント(VJEC)
補修・補強工事業	—	補修・補強工事 (橋梁構造物・トンネル、水力発電所等)の施工および点検・調査業務	エスイーリペア(株) (株)ランドプラン

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2018年 3月期	2019年 3月期	増減 (増加率)	主な要因
売上高	20,197	22,412	+2,215 (+11.0%)	+1,180 コンクリート子会社を連結したことによる増加 +1,172 建築用資材での建築金物・鉄骨の販売増 +197 建設コンサルタントの設計業務収入の増加
営業利益	954	1,120	+166 (+17.4%)	+139 建設コンサルタントでの高利益率案件の完工等 +119 コンクリート子会社を連結したことによる増加 +62 建設用資機材でのケーブル・鉄鋼製品の増益 △125 大型鉄骨工事での製造工程での追加原価の発生等
経常利益	1,051	1,079	+27 (+2.6%)	△167 持分法による投資利益の増減(コリアエスイー)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	680	699	+19 (+2.9%)	

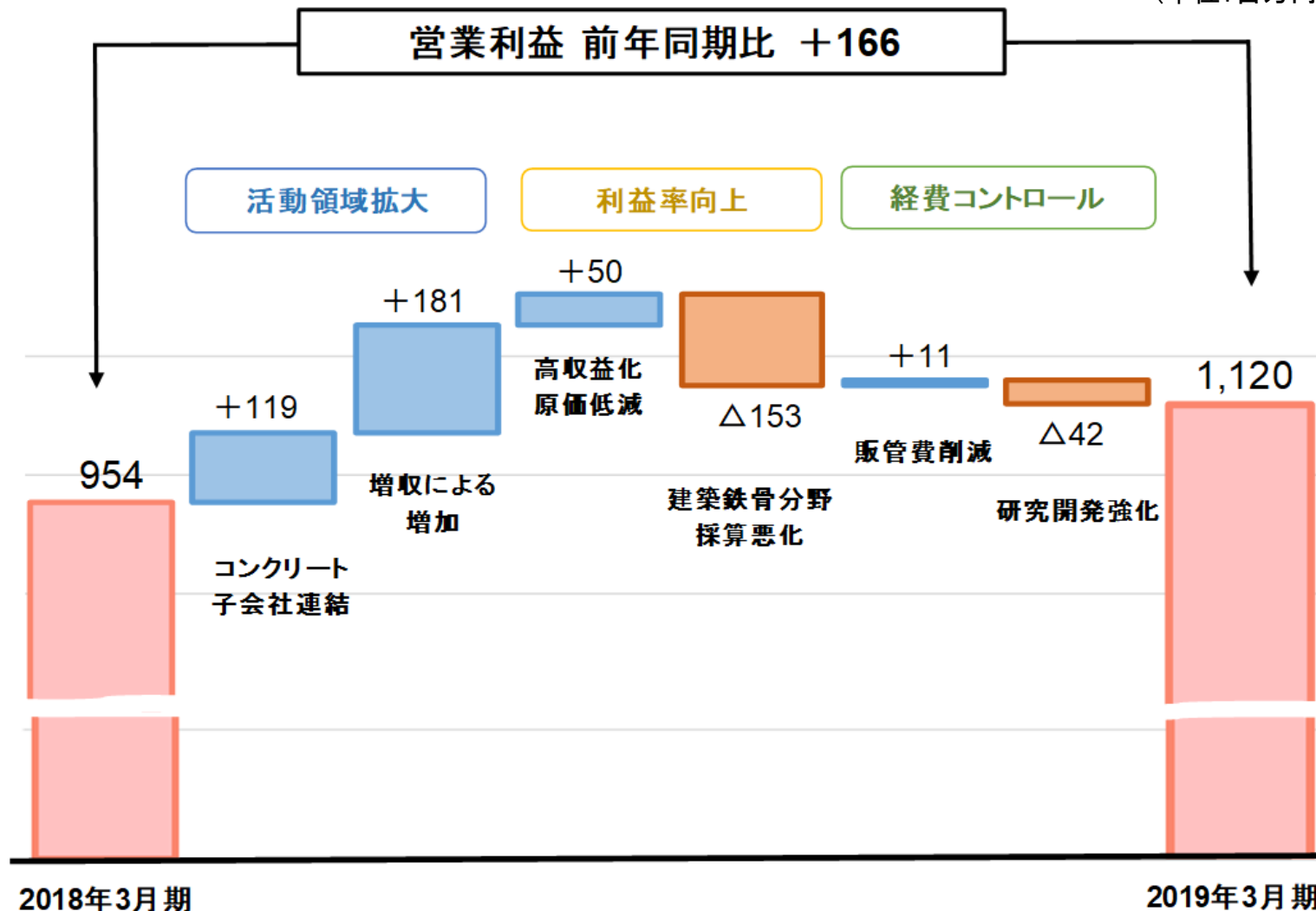
連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2018年3月末	2019年3月末	増減額	主な増減要因
流動資産	14,589	15,195	+605	現金及び預金 $\Delta 360$ 受取手形及び売掛金 +487 たな卸資産 +424
固定資産	7,936	7,897	$\Delta 38$	
資産合計	22,525	23,093	+567	
流動負債	8,656	9,319	+663	支払手形及び買掛金 +934 借入金及び社債 $\Delta 591$
固定負債	5,523	5,060	$\Delta 463$	
負債合計	14,180	14,380	+200	
純資産合計	8,345	8,712	+367	利益剰余金 +430
負債純資産合計	22,525	23,093	+567	
自己資本比率	37.0%	37.6%	+0.6%	
ROE	8.5%	8.2%	$\Delta 0.3\%$	

営業利益差異分析(前年同期比)

(単位:百万円)



セグメント別売上高・構成比



補修・補強工事業
20億46百万円
構成比 9.1%

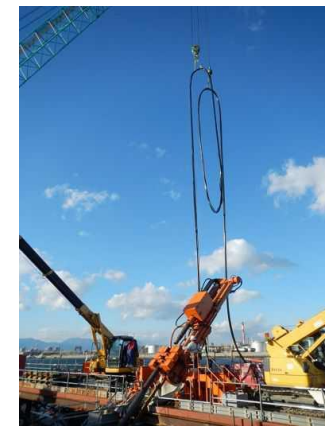
建設コンサルタント事業
8億75百万円
構成比 3.9%



建築用資材の製造・販売事業
98億96百万円
構成比 44.2%

グループ合計
売上 224億12百万円
経常利益 10.79億円
2019年3月期実績

建設用資機材の製造・販売事業
95億94百万円
構成比 42.8%



セグメント別業績

(単位: 百万円)

	2018年3月期		2019年3月期		前期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比		
	営業利益	利益率	営業利益	利益率		
建設用資機材の 製造・販売	8,676	42.9%	9,594	42.8%	917	10.6%
	559	6.4%	739	7.7%	179	32.1%
建築用資材の 製造・販売	8,724	43.2%	9,896	44.2%	1,172	13.4%
	426	4.9%	291	2.9%	△134	△31.6%
建設コンサルタント	678	3.4%	875	3.9%	196	29.0%
	45	6.7%	184	21.0%	138	302.2%
補修・補強工事	2,117	10.5%	2,046	9.1%	△71	△3.4%
	255	12.1%	235	11.5%	△20	△8.0%
合 計	20,197	100.0%	22,412	100.0%	2,215	11.0%
	954	4.7%	1,120	5.0%	166	17.4%

■各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、また営業利益の合計では内部取引および全社費用、のれんの償却額を控除した上、端数調整した数字を記載しております。

2020年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 (予想)	前期比	
売上高	22,412	22,800	387	1.7%
営業利益	1,120	1,153	33	3.0%
経常利益	1,079	1,150	71	6.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	699	677	△22	△3.2%

2020年3月期 期末配当金 **1株当たり 10円 (予定)**

【ご参考:1株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)】

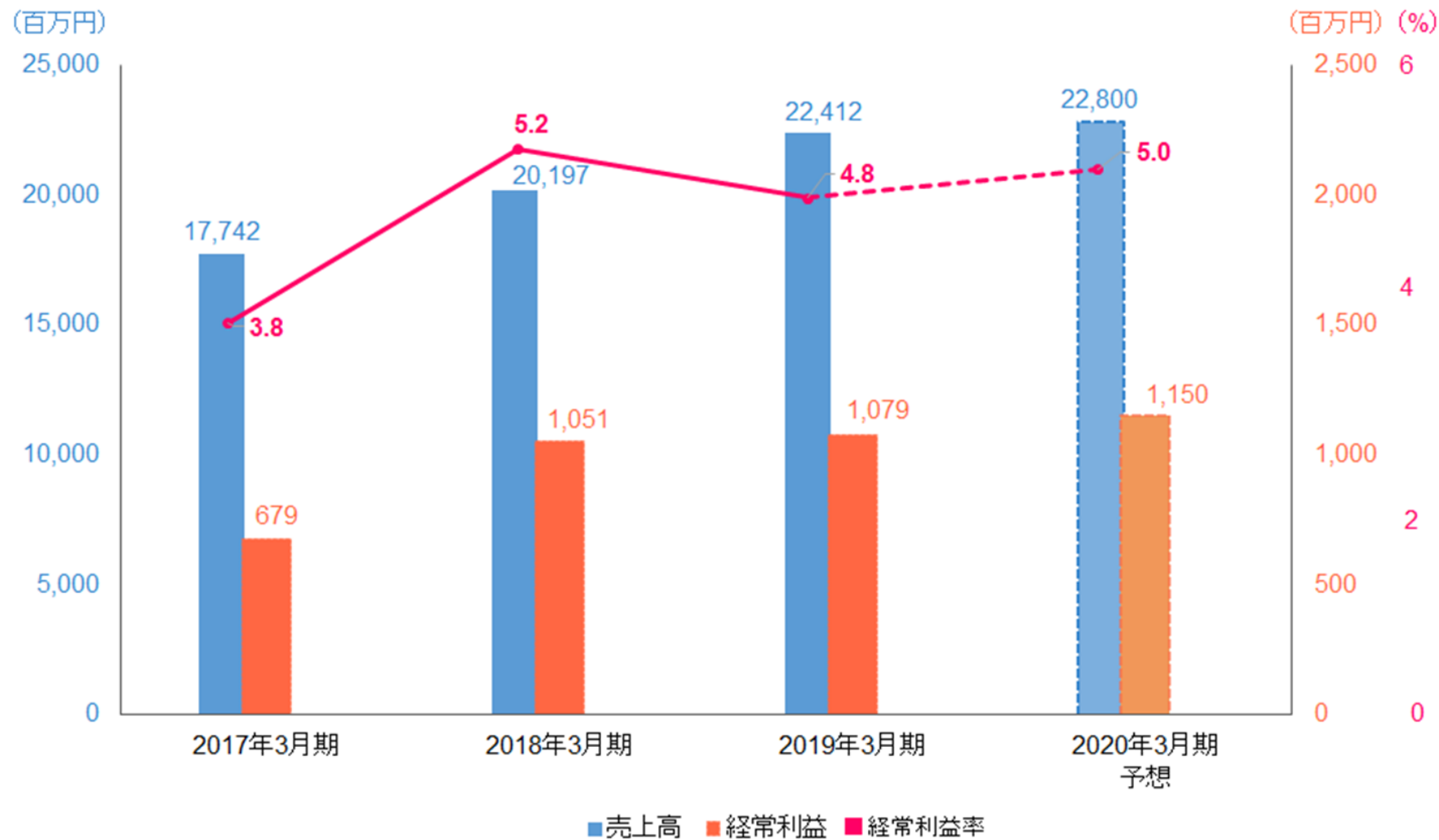
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (予想)
1株当たり当期純利益(円)	22.75	23.40	22.66
1株当たり配当金(円)	18	10	10
配当性向(%)	39.6	42.7	44.1

(注)2018年3月期期末配当金の内訳: 普通配当16円00銭 50周年記念配当 2円00銭

2018年3月期の『1株当たり当期純利益』は、2018年10月1日に実施した株式分割に基づき算出した理論値です。

2019年3月期配当金は、株式分割(1:2)を考慮した配当金額を記載しています。

売上高・経常利益推移





II. エスイーグループの今後の戦略

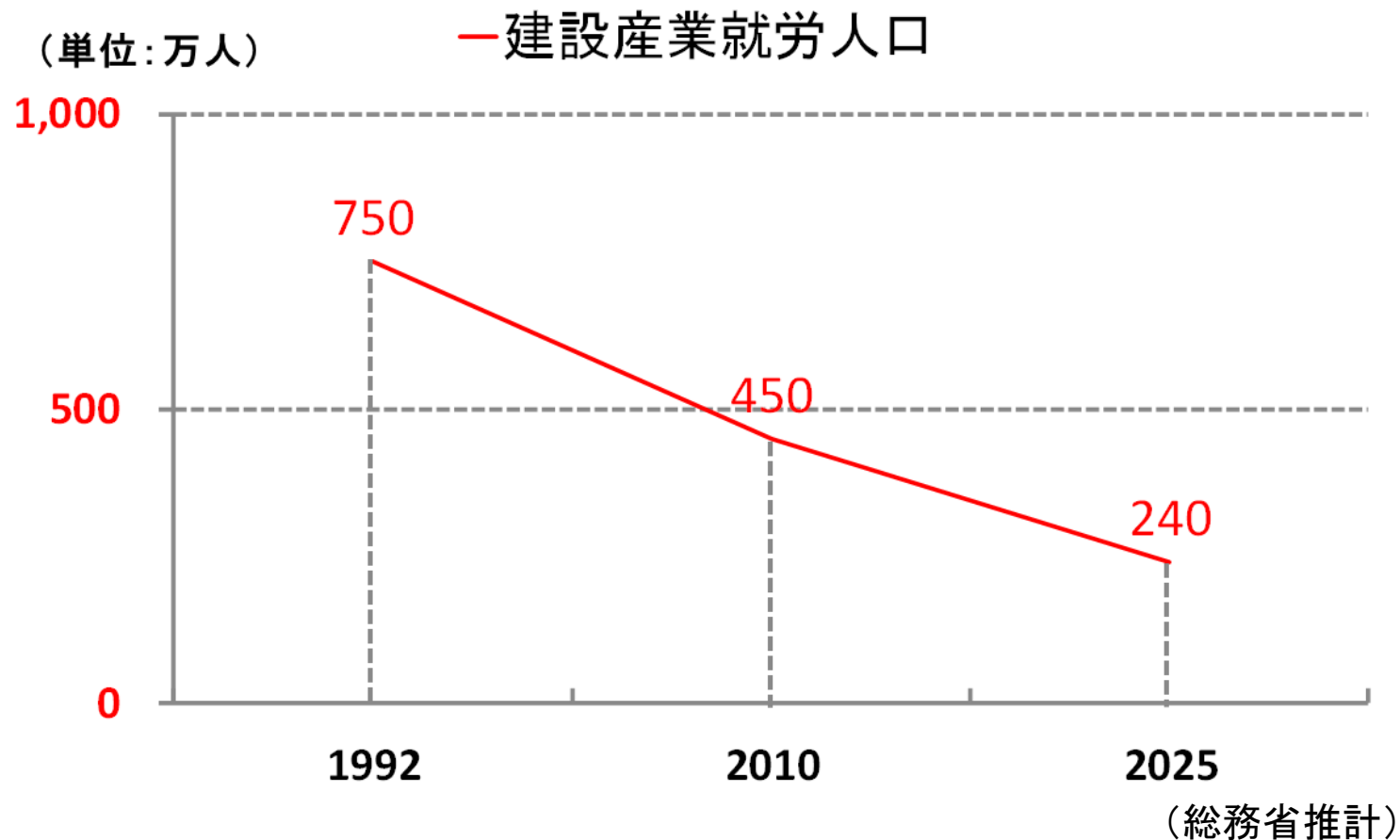
短期（継続）

- ・今年度の公共事業関連予算：防災・減災・国土強靱化予算により7.2兆円と増加
- ・熟練工の高齢化と若手入職者の減少（求人は急増）：人材不足、労務費高騰
→建設分野の就労者：1992年 約750万人、2010年 450万人、2025年 250万人 と予想
- ・政府建設投資は横ばい、補修・補強・防災関連は当分持続されるだろう
- ・2020年東京オリンピックに向けた首都圏の民間建設投資の増加と大都市への集中投資による地方投資の減少（特に東北地方）
- ・インバウンド政策による観光客増加に伴う宿泊施設の建設

中・長期

- ・1970年代に整備された橋梁、トンネル、道路等の更新時期到来：老朽化対策
- ・2020年東京オリンピック後の政府建設投資・民間建設投資の不透明感
- ・三大都市圏における設備投資、リニューアル（ビル・施設・病院などの建替え需要）
- ・国債発行残高の増加：国や地方自治体の財政圧迫
→2023年度末 公債残高 約1,014兆円 見込み（財務省発表より）
しかし、個人金融資産も900兆円強ある
- ・少子高齢化と労働人口の減少、国内市場の縮小傾向（海外市場と米中貿易摩擦）
- ・公共事業関連予算の確保と社会保障費の増大対策

●建設産業就労人口の推移



① 緊急性の高い課題への対応：既存事業の安定成長／成長事業の拡大

- ・社会インフラの老朽化対策、効率的な維持管理・更新
- ・地震や異常気象などに対する、防災・減災、国土強靱化

② 中長期的な課題への対応：3つの成長戦略

1. 補修・補強、防災関連の公共事業への対策

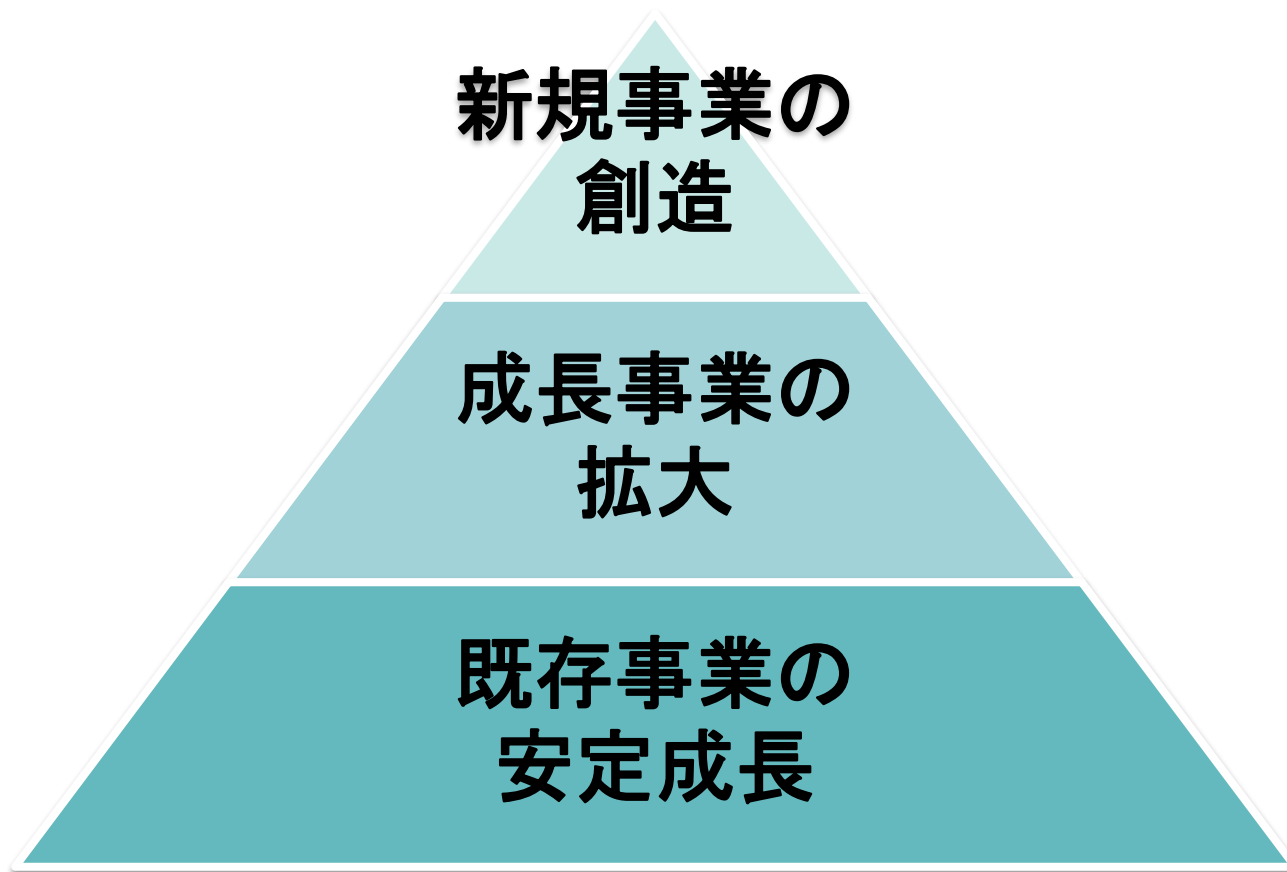
-
- 民間需要の拡大とM&A(エスイーリペアの強化と関連技術のさらなる開発)による新規事業
 - ESCONの活用、プレキャスト製品と現場打ち施工用材料販売

2. 社会インフラ長寿命化政策の要請(耐久目標100年)

-
- 省力化、省人化、工期短縮を可能にするESCONコンクリートの必要性
(受圧板、床版他のプレキャスト化の拡充と協会メンバーとの協力による新規分野への材料販売の促進)
 - 国土交通省九州地方整備局と熊本地震復旧用の自動車道橋梁への応用

3. 人口減少(少子高齢化)や地方過疎化による税収の減少と、社会保障費の増大

-
- | | | |
|----------|---|--------------|
| 海外市場への展開 | × | PPP(公民連携)の推進 |
|----------|---|--------------|



エスイーグループでは、既存事業の安定成長・成長事業の拡大とさらなる発展のため、3つの成長戦略に挑戦

既存事業の 安定成長

- ・建設用資機材の製造・販売事業
(エスイー、A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)
- ・建築用資材の製造・販売事業
(A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)

建設用資機材の製造・販売事業(エスイー、A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)

- アンカー工法の応用分野拡大:砂防堰堤、海岸堤防、嵩上げ
- 土木分野における耐震金物の受注拡大
- インフラの大規模更新・補修補強事業の獲得

建築用資材の製造販売・事業(A&Kホンシュウ、エスイー鉄建)

- 首都圏を中心とした民間住宅／非住宅投資の、安定的な建設需要取込
- 東北地方における復興再生需要の取込
- 鉄骨・梁加工製品等の鉄骨工事(Mグレード、Hグレード)

成長事業の 拡大

- ・建設コンサルタント事業による国際化：
アフリカ、東南アジア、ユーラシア（アンジェロセック、INGEROP、VJEC）
- ・急成長市場である補修・補強工事業（エスイーリペア、ランドプラン）

建設コンサルタント事業（アンジェロセック）

- JICA技術協力プロジェクト ⇒ 相手国政府職員の能力向上
- JICAプロジェクトにおいて中堅・若手技術者がプロジェクトの総括、副総括として参画
- 提案能力／事業推進力の向上による受注競争力の強化
- 仏アンジェロップ社、ベトナムVJECによる技術力向上とさらなる国際化推進

補修・補強工事業（エスイーリペア、ランドプラン）

- ESCONとエスイーリペアの新たな融合による独自工法の開発と提案
- 営業力強化、安定顧客層の形成による受注力の向上
- 施工力の強化と施工品質の向上
- 事業エリアの拡大とエンジニアの積極的採用

新規事業の創造

- ・戦略的M&Aの推進
- ・超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング
(ESCON協会活動、国交省九州地整、熊本地震復旧用の自動車道橋梁、NEXCO床版取替え他)
- ・海外事業展開とPPP(公民連携)
- ・新しいエネルギー
(CO₂、放射線の発生しないエネルギー発電の基礎的研究開発の成功、実用化研究開発中)

戦略的M&Aの推進

- 業際分野におけるM&Aを通じた、経営基盤の強化／事業拡大／スピードアップ

超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の事業拡大とマーケティング

- 製品化ならびに製品ラインナップの拡充を推進中。ESCON協会37社と共同でマーケティング
- ESCON協会による新分野・新応用技術の開発(土木、建築、一般分野)
- 東北地方を拠点とするA&Kホンシュウとのコラボレーション

海外事業展開とPPP(公民連携)

- 現在展開しているベトナムへの進出日本企業と現地企業との協業化、建設分野の現地化(VJECの分野拡大)
- ベトナムに加え、近隣諸国へとエリアを拡大
- 奈良県広陵町 地方創生プロジェクトへの取り組み

新しいエネルギー

- CO₂、放射線の発生しないエネルギー発電の基礎的研究開発の成功、実用化研究開発中

戦略的M&Aの結果 SECグループの工場配置図



2019年4月
エスイーグループ

Factory and Laboratory of SE Group





【新規事業の創造】 戦略的M&Aの推進

●エスイーグループにおけるM&A実績

2009年 4月	朝日興業株式会社(現・A&Kホンシュウ株式会社)の株式取得(子会社化)
2010年 1月	株式会社キョウエイ(現・A&Kホンシュウ株式会社)の株式取得(子会社化)
2012年 5月	株式会社仲田建設(現・エスイーリペア株式会社)の株式取得(子会社化)
2014年 4月	鉄建工業株式会社(現・エスイー鉄建株式会社)の株式取得(子会社化)
2015年 4月	株式会社森田工産(現・エスイー鉄建株式会社)の株式取得(子会社化)
2015年12月	株式会社中川鉄工所の株式取得(子会社化)
2016年 7月	エスイー鉄建株式会社による株式会社丸互「鉄骨事業」の事業承継
2018年 1月	株式会社ホンシュウ(現・A&Kホンシュウ株式会社)の株式取得(子会社化)
2019年 1月	エスイー鉄建株式会社と株式会社中川鉄工所を合併

今後も業際分野を中心としたM&Aによる事業拡大と経営基盤強化を推進

●M&Aの今後の戦略

<実績>

- ・ 2009年～2017年 年間 約1件 成立
- ・ 買収した企業の売上予測(2019年度)

A&Kホンシュウ	今期82.5億円
エスイー鉄建	今期42.5億円
エスイーリペア	今期22.0億円(売上高25億円、九州No.1を目標)

<中期的な目標>

- 1) 今後も積極的な事業拡大を促進
- 2) (株)ホンシュウのような、(株)エスイーの販売力を活用できる案件を優先(ESCONとの相乗効果)

<対象>

現在の4つのセグメントの範囲を中心として、グループ各社の規模の拡大を図る

- 1) 建設用資機材の製造・販売
- 2) 建築用資材の製造・販売
- 3) 補修・補強工事
- 4) 建設コンサルタント
- 5) ESCON事業と相乗効果
- 6) 新エネルギー(CO₂、放射線の出ないクリーンエネルギー)開発

<M&A後の運用>

グループ各社を有機的に結合させる

人材交流、規模のメリット、Place Policy(マーケティング戦略)のメリット、技術的シナジー、経営ガバナンスの容易さを追求

【新規事業の創造】

技術開発型企业への取り組み

- ◆ 超高強度合成繊維補強コンクリート「ESCON」の拡販と用途開発
→国土交通省九州地方整備局 高橋と熊本地震復旧自動車道橋梁の設計・施工による建設分野へのインパクト
- ◆ 新エネルギーの開発と発電
→CO₂、放射線の発生しないエネルギー発電の基礎研究開発成功、実用化研究開発中
- ◆ 既存製品の新用途開発による市場規模の拡大
- ◆ エスイーグループの技術力を結集し、「新材料」、「新工法」、「新設計法」の創出と事業化(ESCONの応用分野の拡大)

【ESCONの具体的活動】

- ① 「ESCONスラブ」の研究開発 優秀研究賞受賞
(ショーボンド建設(株)、(株)横河ブリッジ、NEXCO、(株)エスイー 共同開発)
→NEXCO、首都高速道路(株)、阪神高速道路(株):
国土交通省 鋼橋床版の取替需要
- ② ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート)事業拡大と
マーケティング

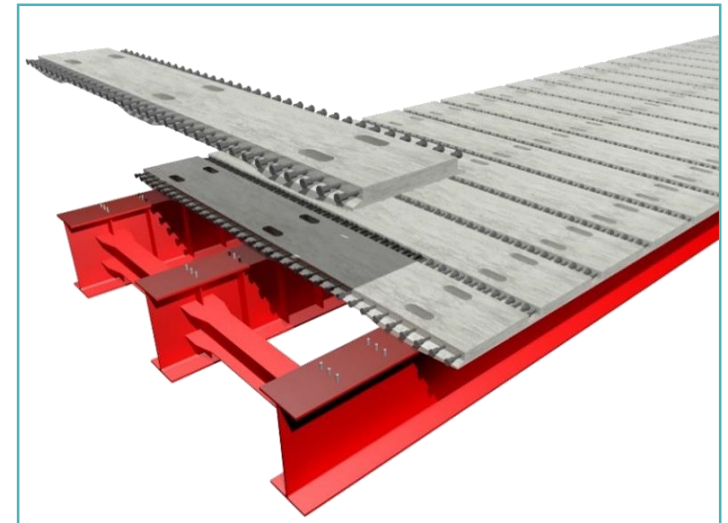
① 「ESCONスラブ」の開発研究 優秀研究賞受賞

平成29年10月18日

「超高強度コンクリートと高強度鉄筋を用いた道路橋床版の開発研究」と題した災害科学研究所との連携研究が、(一財)災害科学研究所 優秀研究賞を受賞いたしました。



災害科学研究所 松井保理事長より記念品の授与



【ESCONスラブのイメージ図】

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● コンクリート構造物の劣化原因

凍害



< RC 橋脚 >

塩害



< RC 桁 >



< PC 桁 >

道路橋の経年疲労



< RC 床版 >



②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●「ESCON」とは

- ・圧縮強度、曲げ引張強度が一般的なコンクリートより高い
- ・鋼材を使用しないため腐食せず、また高い靱性からひび割れにも強く、コンクリート系構造物の長寿命化が図れる

● 開発の背景

・労務者の人材不足、熟練工の激減:

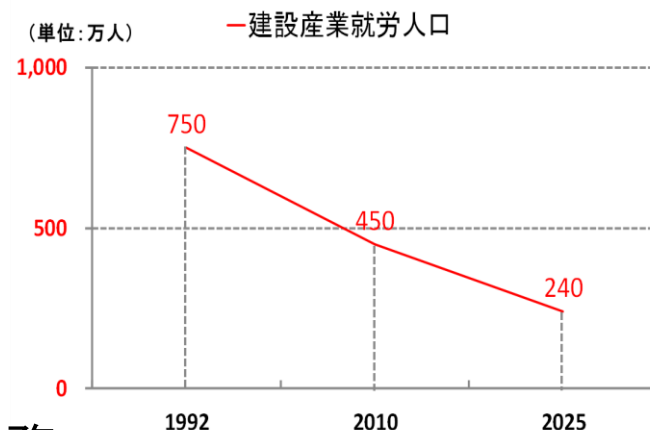
現場作業の負担低減と製品の品質確保が必要

⇒ 省力化、省人化、工期短縮

・南海トラフや首都直下型などの発生リスク:

大規模地震に対する構造物の耐震化対策が急務

⇒ 財政状況の逼迫による耐震化対策費の低減に対応



- 高強度コンクリートの使用により構造部材の軽量化が可能
- 腐食劣化しないコンクリートの使用により耐久性が向上し、構造物の長寿命化および維持管理費・更新費の大幅な削減が可能

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● ESCONの特徴

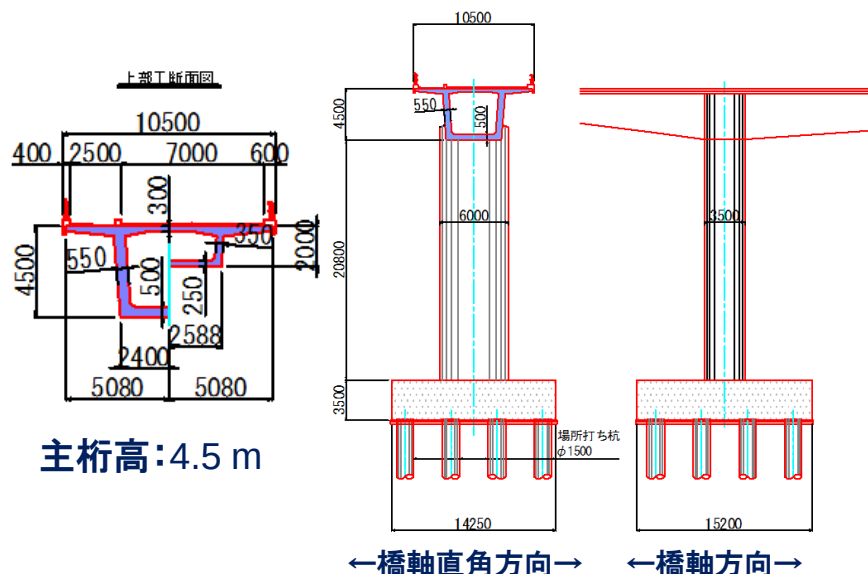
- 圧縮強度が極めて高い: 150N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約4~5倍)
- 曲げ引張強度が極めて高い: 20N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約7~10倍)
- 凍害抵抗性が極めて高い ➡ 寒冷地の構造物への適用に有効
- 塩分浸透性が極めて低く、ほとんどゼロである
➡ 沿岸地域、凍結防止材散布地域の構造物への適用に有効
- 透水性が極めて低く、ほとんどゼロである ➡ 水理構造物に有効
- 極めて中性化しにくく、透気性がほとんどゼロである
➡ 二酸化炭素濃度の高い環境にある構造物への適用に有効
- 流動性が高く、自己充填性を有する ➡ 薄い部材や複雑な形状への適用に有効
- 耐摩耗性・耐衝撃性が高い ➡ 滑走路や水理構造物への適用に有効

上記の特徴を活かし、
『誰でも、いつでも、どこでも簡単に使えるコンクリート』の提供が可能

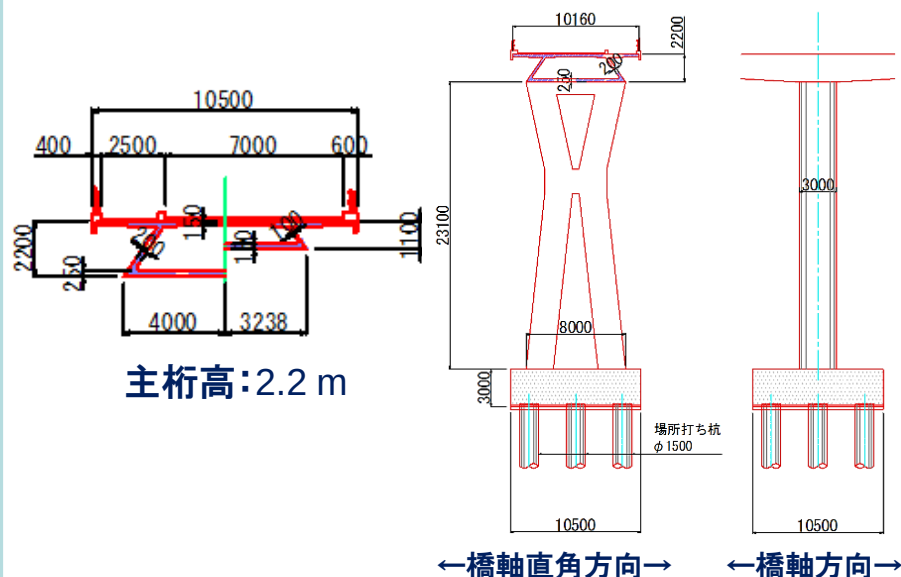
ESCON道路橋の試設計(従来橋との比較)

- 試設計橋梁の諸元
- ・ 橋梁形式: 5径間連続ラーメン変断面箱桁橋
 - ・ 橋 長: 345.0m
 - ・ 支 間 割: 51.3m + 76.0m + 76.0m + 76.0m + 63.9m
 - ・ 幅 員: 10.5m (車道 7.0m , 歩道 2.5m)

【従来の橋梁: プレストレストコンクリート(PC)箱桁】
コンクリートの設計基準強度: 40 N/mm²



【ESCON仕様橋梁: 内・外ケーブル併用PC箱桁】
コンクリートの設計基準強度: 150 N/mm²



効果 主桁高(橋脚部): 4.5 m ⇒ 2.2 m
主桁のコンクリート体積: 約50%減
上・下部工の工事費: 約20%減

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

● ESCON: 製品化ならびに製品ラインナップ拡充を推進

橋梁構造分野



ESCONスラブ
(道路橋用床版)



中・小規模
橋梁への適用



柱部材への
適用

環境防災分野

ESCON保護ブロック(耐磨耗パネル)



ESCON受圧板
(グラウンドアンカー用)



ESCONパネル
(ロックボルト用)



その他分野

ESCONデッキ(覆工板)



- ・海洋構造物全般
- ・港湾用・棧橋デッキ・床版(市場大)
- ・ESCONカバープレート
(漁港岸壁耐震ケーブルアンカー用)

上記の他、建築分野、放射線遮断容器等、応用分野への用途拡大を検討
→ マーケティング(拡販)と製品ラインナップ拡充を開始

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 事業拡大とマーケティング

●採用実績事例3

ESCON受圧板(グラウンドアンカー用)

【特徴】

従来のコンクリート製受圧板に対して1/2～1/3程度軽量となるアンカー用受圧板。
鋼製受圧板の使用が控えられている地域・発注者をメインターゲットとします。

◇NETIS登録 No. QS-170016-A



ESCON受圧板設置状況(植生機材吹付け後)



ESCON受圧板設置状況(近接)

主なESCONターゲット市場（初期5～6年）

鋼橋床版（取替・新設）

	種別	延長事業費	年間	ESCON材料	備考
NEXCO 高速道路更新	床版大規模更新	224km 16,429億円	200億円/年 100億円(材料)	40億円	市場の40%
首都高速道路 阪神高速道路	更新、修繕	6,300億円 3,700億円			後年市場化
中堅ゼネコン	トンネル、セグメント 建物、道路構造物				後年市場化
PC業界	ポステン(現場) プレテン(工場)	1,600億円/年 700億円/年	市場の10%	30億円	
プレキャスト 二次製品	市場規模 (代表2社)	600億円	市場の10%	25億円	
自社製品	プレキャスト、セグメント(受圧板、覆工板、鋼橋用床版他)			5億円	
合計				100億円	ESCON 50,000m ³ 相当

※首都高速道路、阪神高速道路は後年引き続いて市場開拓する。



【新規事業の創造】 海外事業展開

●アンジェロセックの新たな事業展開

(株)アンジェロセックは、アフリカ、アジアを中心に積極的な海外事業を展開しています。

JICAや相手国政府からの受注物件の確保ならびに継続物件の消化活動を行っています。

<今年度 完工したプロジェクト>

「東ティモール国 道路維持管理水準向上プロジェクト」

「タンザニア国 第二次ニューバガモヨ道路拡幅計画詳細設計」

「コートジボワール国 アビジャン三交差点建設事業準備調査」等



東ティモール コモロ川の「上流橋」及び「アクセス道路」が完成。Ponte HINODE(日の出橋)と命名。

コートジボワール国 アビジャン三交差点建設事業

(株)アンジェロセックによるアフリカ・フランス語圏でのプロジェクト

- ◆ コートジボワール国の経済中心都市アビジャンを東西に横断するミッテラン通りに位置する3つの交差点の改良プロジェクト
- ◆ STEP適用案件として、工事費の30%を日本国内から調達する予定
- ◆ 西アフリカ仏語圏において、フランス式の契約約款(CCAG : Cahier des Clauses administratives générales)を適用する有償橋梁案件プロジェクトとして、JICAおよび国交省の注目も高い
- ◆ JICAもこれを機にフランス式契約約款の勉強を開始し、本プロジェクトを西アフリカ仏語圏でのモデル事業ととらえている

◆ 三交差高架橋の概要

警察学校前交差点： 5径間連続鋼箱桁橋 橋長170m
リビエラ3交差点： 6径間連続鋼箱桁橋 橋長221m
パルメリ交差点： 6径間連続鋼箱桁橋 橋長266m
(STEP適用のため、日本から鋼橋を輸出)

有効幅員：20.6mの6車線

●ベトナム・バクダン橋完成、2018年9月1日 開通式開催

- ◆ 2012年に(株)アンジェロセックが提案した3主塔、5径間連続PC斜張橋(スパン240m)
- ◆ アプローチを含む全橋長5km、幅員6車線27m
- ◆ 総工費：約270億円(日本の70%程度)
- ◆ (株)エスイーを中心とした日越企業8社によるBOT事業
- ◆ 日越外交樹立45周年記念
- ◆ (株)エスイー、(株)アンジェロセック技術提案とBOT投資プロジェクト

注) 1. 航空制限のため、主塔高の制限あり
2. ハノイ、ハイフォン、ハロンの3都市のH型主塔



開通式の模様

● 東アフリカ初のPC斜張橋 ナイル架橋、完工

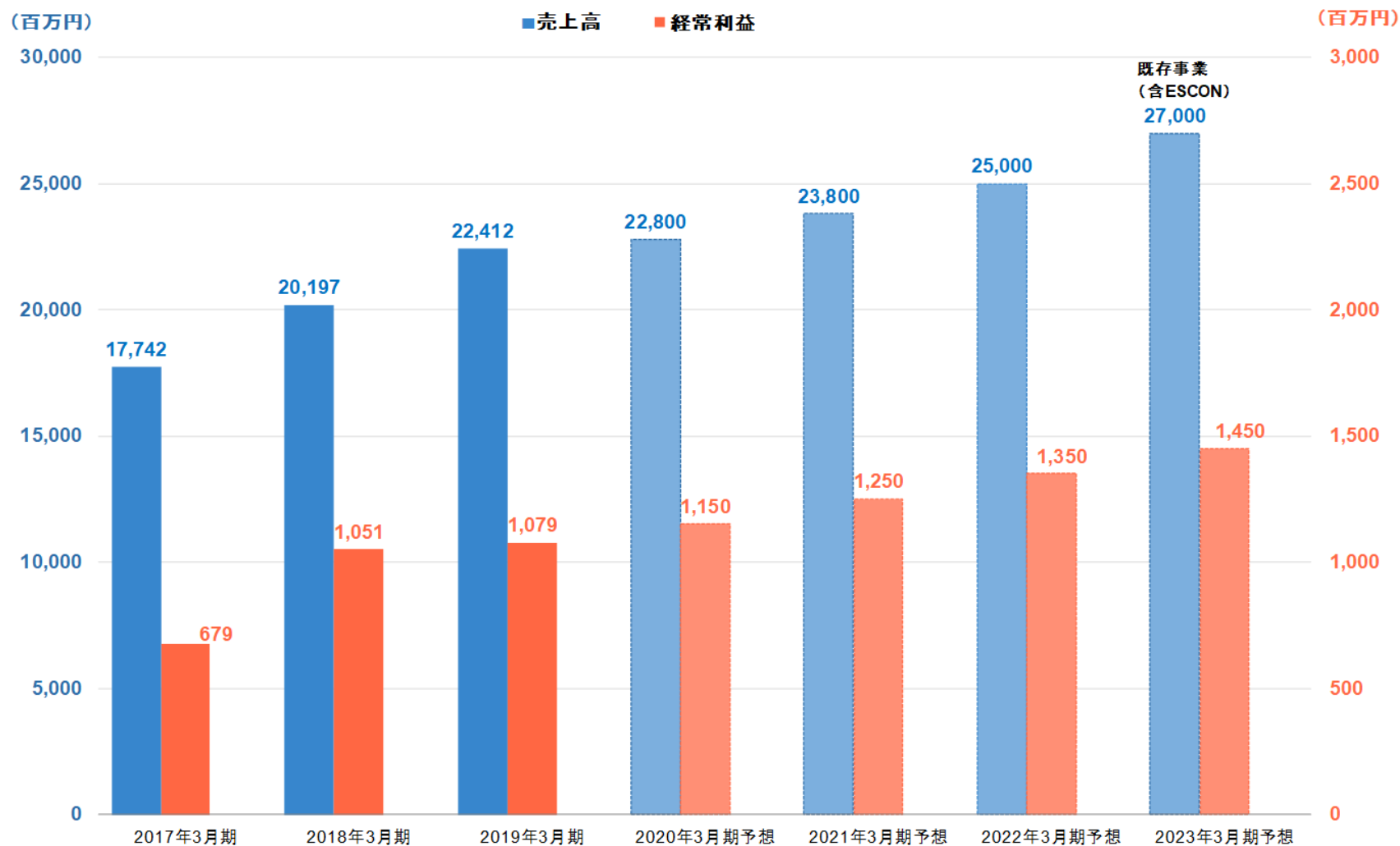
- ◆ 日本政府の有償資金協力によるODAプロジェクト
- ◆ ウガンダ共和国ジンジャ県のナイル川源流付近におけるアフリカ全土で最大級のPC斜張橋
- ◆ 橋長525m(135m + 290m + 100m)
- ◆ SEEE／FUT-H型斜材ケーブルが採用、(株)エスイーから資材供給、架設機材リース、スーパーバイザー派遣、エンジニアリングを提供
- ◆ 施工：銭高組・現代建設JV





エスイーグループ売上／利益目標

●中期300億円化戦略



将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

